

## イラン軍指導部が米イスラエルの侵略に対して戦略的勝利を宣言

テヘラン・タイムズ

2026 年 6 月 16 日

[Iran's military leadership declares strategic victory over US-Israeli aggression - Tehran Times](#)

テヘラン発 イランの最高軍司令官たちは一連の公開声明で、イスラム共和国は米国とイスラエルによる最近の 2 度の侵略戦争によって戦略的に強化されたと総称し、敵軍が掲げた目的をいかなる達成も果たせず、イラン領海に接近する勇気もなかったことを強調した。

イラン陸軍最高司令官アミール・ハタミ少将は火曜日の式典で演説し、イランが 2025 年 6 月と 2026 年 2 月に開始された攻撃的な作戦を成功裏に撃退したことを語った。最初の紛争は 12 日間、2 回目はイスラム革命指導者の暗殺から始まる 40 日間に及んだ。

ハタミは、いずれの場合も敵が攻撃者として行動し、イランが強力な防御戦を展開したこと、そして交渉中に欺瞞的な攻撃を受けたにもかかわらず、イラン軍が両回とも敵に停戦を懇願させたと強調した。さらに、敵の主な目的である政権交代とイラン国家の服従は明確に失敗したと断言し、陸軍および海軍部隊がイスラム革命防衛隊部隊と並んでペルシャ湾およびオマーン海沿岸に連携して展開し、敵対的なイランの海岸への接近を効果的に防いだことを称賛した。侵略によって国の領土を一寸も失わなかった。

この回復力の物語を強化するように、IRGC クッズ部隊司令官エスマイル・カーニ准将はテレビインタビューで、抵抗枢軸は戦場から撤退せずに極限の圧力に耐えられる唯一の勢力であることを証明し、ワシントンモテルアビブもパレスチナとレバノン全土で前例のない破壊をもたらしたにもかかわらず、抵抗組織を排除することに成功していないと主張しました。カーニは、アクサ洪水作戦から現在に至るまで、抵抗勢力が地を放棄していないことを観察し、その揺

るぎない姿勢は敵を深く警戒させている。また、最近の40日間の戦争を、アメリカを国際舞台で失墜させ、シオニスト政権の内部衰退を加速させた転換点と位置づけた。また、バブ・エル・マンデブ海峡がレジスタンス戦線の地域的姿勢における重要な交渉点であることを強調し、必要に応じて追加能力を発動できると示唆し、神の信仰に根ざした抵抗が再び勝利を収めたことを改めて強調しました。テヘランの革命広場から抑圧された国々の自由広場に至るまでです。

これらの評価に反響し、イラン軍の報道官であるモハンマド・アクラミ・ニア准将は、最近の紛争から軍が軍事的に強化され、作戦調整の改善や先進的な国産ミサイルや次世代ドローンの配備が進んでいると述べ、軍事準備は外交努力と完全に連携して維持されていると強調した。すべての行動は統一された国家戦略のもとで行われ、イスラム革命の指導者である最高司令官アヤトラ・セイエド・モジタバ・ハメネイの直接指揮のもとで行われた。アクラミ・ニア氏は、軍が引き続き警戒態勢を維持し、目を開けて引き金に手を置きつつ、国の外交的路線を支援していることを確認し、最近の覚書の実施期間中および将来の合意以降も国益を守る軍の揺るぎないコミットメントを改めて表明しました。別件で、陸軍地上軍司令官のアリ・ジャハンシャヒ准将は、テヘランでの記念式典でイランの妥協を許さない防衛姿勢を再確認し、イラン軍は国の主権、イスラム、領土保全に対するいかなる脅威にも全力を尽くさないと宣言した。彼は国の殉教者たちが神との契約を果たしつつ、敵に邪悪な目的を悟らせないようにしたと述べました。

これらの宣言は、パキスタン仲介によるイランとアメリカ間の覚書の直後に発表されたもので、日曜夜に正式に敵対行為を終結させた。この協定はレバノンを含むすべての戦線における軍事作戦の即時かつ恒久的な停止と、イランに対する海上封鎖の完全かつ即時の解除を規定している。しかしイラン当局は一貫して、外交的手続きが進む中で軍の警戒は妥協せず、軍は十分な認識と戦略的政策と連携をもって行動し、イスラム革命指導者の命令に従い、あらゆる状況下でも国家の安全と主権が守られることを確実にすると強調している。